

サーブの重要性と試合との関係性～Jr.テニス選手のゲーム分析～

Importance of the serve and a relationship with the match ～The game analysis of Jr. tennis players～

1K05B076

工藤 麻理

指導教員

主査 奥野景介先生

副査 関誠一先生

1 緒言

今日、テニスの現状として「競技スポーツ」「健康スポーツ」「レジャースポーツ」の3つに分けられる。

競技スポーツとして行われるテニスにはルールがある。そのルールは問題が発生するたびにルールは変化してきている。サーブの定義は「ボールを空中に離し、そのボールをラケットで打つこと」である。

サーブの種類は大まかに「フラットサーブ」「スライスサーブ」「スピンスーブ」に分けられ、ボールの回転によって分類されている。サーブの重要性は多く述べられてきている。本研究では、サーブの重要性が捕らえづらいため、Jr.選手にターゲットを絞った。そして勝者と敗者の間にサーブのポイントの違いがあるのかを部分的分析を行い明らかにすることにより、サーブの重要性を解明することを目的とした。

2 方法

実験の被験者は、東京都内テニスクラブの Jr. チームの 12～16 歳の男子 8 名とした。すべての選手は右利き、テニス歴 3 年以上の選手とした。1 人につき 2 試合行わせて(組み合わせはランダム)計 8 試合行った。1 セットマッチのシングルスをビデオカメラで撮影し、観察、分析した。また、8 試合分のそれぞれのデータを、楚辺手のポイントがどのように決まったのかを記載した。サーブだけに絞って分析項目をあげ、8 試合分それぞれ当てはまるポイントを分析した。

3 結果

全サーブ数は、8 試合中 3 試合が高かった。1st サーブは、8 試合中 3 試合が高かった。1st サービスエースは、8 試合中 4 試合が高く、1st サービスウィナーは、8 試合中 3 試合が高かった。2nd サーブは、8 試合中 4 試合が高かった。2nd サービスエースは、8 試合中 4 試合が高く、2nd サービスウィナーは 8 試合中 4 試合が高かった。ダブルフォルトは 8 試合中 2 試合が高かった。サービスエースは 8 試合中 6 試合が高く、サービスウィナーは 8 試合中 4 試合が高かった。サーブポイントは 8 試合中 7 試合が高かった。1st サーブ率は 8 試合中 4 試合が高く、2nd サーブ率は 8 試合中 5 試合が高かった。ダブルフォルト率は 8 試合中 2 試合が高かった。サーブポイント率はすべての試合において高かった。1st サーブポイント率は 8 試合中 6 試合高く、2nd サーブポイント率は 8 試合中 6 試合高かった。過半数の選手がバックレシーブよりフォアレシーブの方が多かった。勝者がフォアレシーブエース(以下 FRA とする)、バックのレシーブエース(以下 BRA とする)ともに 0 であった試合は 0 であったことに比べ、敗者が FRA、BRA ともに 0 であった試合が 4 つであった。

4 考察

1st サーブは 8 試合中 3 試合が高かったことや、2nd サーブは 8 試合中 4 試合が高かったことより、1st サーブと 2nd サーブの割合はそこまで勝敗に関与していないことが考えられる。それよりもサーブ時にポイントを取るの方が大切であることがわかった。特に、2nd サーブでもポイントを取ること

ができる、相手から攻められないような 2nd サーブを身につけることが必要であることが明らかになった。サービスエースが 8 試合中 6 試合高かったことより、サービスエースがとれるほどのサーブを身につければ勝利に結びつくのではないかと考えられる。ダブルフォルト数は 8 試合中 2 試合が多く、残りの試合が少なかったことや同値であったことより、ダブルフォルト数というのは勝者敗者ともにあまりかわらず、関係性を見出すことができなかった。勝者が FRA、RBA とともに 0 であった試合は 0 であったことに比べ、LP が RFA、RBA とともに 0 であった試合が 4 つであった。このことから、多くの勝者のサーブはレシーバーが容易にエースを狙えるよ

うなサーブでないことを意味している。サーブの重要性は相手からレシーブでエースを取られないサーブであることも関わってくるように思えた。レシーブでエースをとられない為には、サーブを打った後の準備や、サーブ後の戦術も関わってくると考えられた。

5 結論

今回の研究では Jr. 選手のサーブの重要性が明らかになった。特に、確実に入り、尚且つレシーバーに攻められないような 2nd サーブを身につけることと、エース級の 1st サーブを身につけることが大きなポイントとなった。